

民生病院常任委員会審査概要報告書

委員長 筏井 哲治

- I 開催年月日 令和 6 年 7 月 23 日（火）
- II 会議時間 午前 10 時 00 分～午前 10 時 30 分
- III 出席委員等〔出席委員〕◎筏井 哲治 ○梅島 清香 山上 尊士
林 貴文 石須 大雄 坂林 永喜
藪中 一夫 曾田 康司 狩野 安郎
(◎…委員長 ○…副委員長)
- 〔議長〕 本田 利麻
- 〔副議長〕 横田 誠二
- 〔説明員〕 別紙名簿のとおり（福島市民病院長が公務のため、
竹田健康増進課長が病気療養のため欠席）
- 〔委員外議員〕 なし
- 〔事務局職員〕 高嶋 史恵 島田 輝 堀 泰平
- 〔傍聴者〕 なし

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、報告はなかった。 〉

2 その他

- 。本委員会の行政視察について

令和 6 年 8 月 5 日（月）から 7 日（水）に実施することが報告された。

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

（以下、質疑・質問内容は ○、答弁内容は △ で表示）

【手足口病の発生状況について】

- 令和 6 年 6 月から県内においても手足口病の感染が猛威を振るっているが、本市の発生状況は。また、新型コロナウイルス感染症も含めた、保育園、幼稚園などにおける感染予防及び感染拡大防止の対応状況は。
- △ 手足口病は、口腔粘膜や手足などに水疱性の発疹ができる急性ウイルス感染症である。主に 5 歳以下の乳幼児がかかる病気で、例年、夏にかけて増加し、7 月下旬

頃に流行のピークを迎えるが、今年は全国的に5月下旬から増加傾向にあり、県内においても6月中旬に、5年ぶりに流行警報レベルとされる定点医療機関当たりの患者数が5.0人を上回り、以後5週連続で増加を続けている状況である。感染症については、県の厚生センターが所管しており、高岡市、射水市、氷見市の3市を合わせた数値となるが、7月17日の発表分では、定点医療機関当たり30.50人となっている。5年度の最高値が4.75人であったことから、約6.4倍増加している。

△ 本市では、県の感染症情報センターから発出されている感染症発生動向速報を市内の全園に周知し、感染症の発生状況を共有している。手足口病の流行については、6月19日、7月10日に発出された速報により、2回注意喚起を行っている。手足口病は患者の咳やくしゃみなどによる飛沫感染をはじめ、経口感染や接触感染が感染経路となっている。各園では、日頃から国が定める感染症対策ガイドラインに基づいて対策を講じているところであるが、手足口病の感染予防及び感染拡大防止のため、特に3点の対策を実施している。1点目に石鹸を用いた手洗いの実施、2点目にタオルの共用を避けること、3点目にタオル等の消毒には塩素系漂白剤や熱湯を用いることが重要とされており、改めて周知したところである。また、手足口病に加え、新型コロナウイルス感染症についても流行が拡大しており、7月17日発出の感染症発生動向速報に基づいて注意喚起するとともに、感染予防及び感染拡大防止に向けた対応についても周知している。

○ 市内での病児保育の受入状況は。

△ 病気の回復期に至っていない児童を病院内の専用スペースで預かる病児保育は、JCHO 高岡ふしき病院、済生会高岡なでしこ保育園、あさひキッズの3園で受入れを行っている。土曜日・日曜日を除き受け入れており、各園の定員は1日あたり3名となっている。

【令和6年能登半島地震によって被災した家屋等の公費解体について】

○ 本市における公費解体の現状は。また、公費解体に伴う災害廃棄物の仮置場の状況は。

△ 6年7月22日現在で138件の申請を受理している。そのうち、市による公費解体が106件で、市民が自費で解体された費用償還が32件となっている。工事の発注状況は、7月22日現在で7月中に工事を開始する9件を発注済みであり、10棟を超える建物が対象となる。また、公費解体に伴う災害廃棄物の仮置場を二上浄化センターに設けているが、柵や飛散防止のためのビニールハウス、盗難防止や防犯対策のための監視カメラの設置が進んでいるところである。この7月発注の解体物から順次、仮置場に持ち込む予定となっている。

【令和6年10月からのプラスチックごみ等の分別方法の変更について】

○ 6年10月1日からプラスチックごみの分別方法が変わるため、住民説明会を実施しているが、市民からの反応は。また、剪定枝の処分について、以前から例えば砺波市と大きさなどに関して比較されているが、本市の現状と考え方は。

△ 住民説明会では、10月1日からプラスチックごみと高分子系ごみを一括回収する

ことや、ごみ集積場で新たにコイン電池を回収すること、また、剪定枝のストックヤードへの持ち込みと戸別収集において、長さ 80 センチメートル以内という制限を緩和して 3 メートル以内になることを周知している。6 月 3 日から 7 月 27 日までに市内 29 か所を回る予定で、これまでに 26 か所が終了し、約 3,300 名の方々に参加いただいている。参加者の反応としては、今回の変更に伴う戸惑いはほとんどなく、ごみの分別が便利になることに関して、おおむね好意的に受け止めていただいていると感じている。家庭系ごみの分け方と出し方ガイドが 2023 年版で止まっており、2024 年版はどうなるのかという質問がよくあるが、10 月 1 日から分別方法の変更を予定していたため、広報紙「市民と市政」6 年 9 月号に織り込み、各家庭に配付予定とお伝えしている。また、説明会場では出前講座も受け付けており、9 件の申込みをいただいている。一方、住民説明会に参加できなかった方に対しては、「市民と市政」6 年 8 月号において見開き 2 ページの特集を掲載予定である。なお、YouTube にも動画を掲載しており、プラスチックごみと高分子系ごみの一括回収の動画は 2,200 回以上、コイン電池の収集開始と剪定枝の分別制限緩和の動画も 1,000 回程度の視聴をいただいている。剪定枝の処分に関しては、6 年 6 月定例会でも答弁したとおり、現在、南部地域において回収拠点を設定の実証実験を行うことを考えている。処分時の長さの制限が緩和されたものの、ストックヤードへの持ち込みや個別回収は有料となっている。南部地域の方々とどのような方法が適切であるかをお話ししながら、砺波市の方法等も参考にして実証実験を進めていきたい。

△ 市内では、南部地域において剪定枝が多く出されるが、ストックヤードまでの距離がかなり遠い状況にあることから、当該地域で回収拠点を設ける実証実験を行い、ニーズ等を把握して今後の施策に生かすことを検討したい。

○ 過剰なサービスになるのはいかがかと思うが、住民サービスということで、適宜バランスをとりながら進めていただきたい。（要望）

私事であるが、午前 8 時 30 分頃にストックヤードにごみを搬入したところ、環境政策課長が汗だくになりながら、ごみ収集車の見送りをしているのを見て、安全に業務を行ってほしいという思いを感じて感心した。（意見）

△ 安全第一な業務であることから、毎朝、環境政策課長がごみ収集車の見送りを実施している。

【令和 6 年能登半島地震による高岡市二上霊苑の被害状況について】

○ 今回の能登半島地震による高岡市二上霊苑の被害状況とその対応は。

△ 地震が発生した翌日の 1 月 2 日から職員が二上霊苑に建っている 5,534 基すべての墓地を現地調査したところ 82 件の被害を確認した。内訳は墓石の倒壊が 1 件、墓石の落下が 4 件、墓石のずれが 18 件、灯籠の倒れが 25 件、納骨室の扉が開いたなどその他が 34 件となっている。対応としては、1 月 4 日から被害のあった所有者に電話連絡を開始し、電話のつながらなかった場合には郵送で案内している。墓石の倒壊やずれなど、降雪による二次被害のおそれのある危険なものについては、所有者に速やかに対応いただいた。その他の被害については、所有者が確認のうえ、

順次、対応していただいたところである。

- お墓以外に管理棟などには被害はなかったのか。
- △ 管理棟などの施設には特に被害はなかったが、4月に地震の影響と思われる道路の陥没が発見され、直ちに修繕工事を実施している。
- お盆の時期が近付いてくるため、お墓参りに来られる方が地震の被害に驚かれることのないように対応をお願いしたい。(要望)

【令和6年能登半島地震による災害関連死の状況について】

- 6年6月定例会において、高岡市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正が可決された。今回の能登半島地震において、他自治体では、遺族からの申請を受けて審査会で災害関連死と認定する事例が出てきているが、本市の状況は。
- △ 災害弔慰金の支給に関する問い合わせは数件あり、手続方法をお伝えしているところであるが、申請はまだない状況である。
- 今後、申請されることは想定されるのか。
- △ 最終的にどのようなになるかは分からないが、申請される可能性はあると思っている。
- 災害後に病気など様々な事情で亡くなられた方がおられるが、今回の震災と何らかの関連があると思われる案件については、遺族の方へ災害弔慰金支給制度に関する働きかけをお願いしたい。(要望)

【消防職員を対象とした公務員倫理研修について】

- 本市消防職員が逮捕された事件を受け、消防本部で再発防止に向けた公務員倫理研修を実施したとの報道があった。消防士は市民の安全・安心を守るため、時には命をかけて肉体的にも精神的にも過酷な環境で働いていると思っている。そのため、お互いに何でも言い合える風通しの良い職場環境の構築が何よりも大切であると考えているが、見解は。
- △ 消防本部では、令和6年7月17日と18日の2日間にわたって公務員倫理研修を実施した。今後も全体の奉仕者として、厳正・公正な公務の執行と綱紀の維持のために、このような研修を定期的実施し、市民からの信頼回復に努め、安全・安心の確保に取り組んでいきたい。また、風通しの良い職場環境の構築にも努めていきたい。
- トップの考えを組織の隅々まで行き渡らせることは難しい部分もあるが、市民の安全・安心をより一層守ることにつながっていくと思われることから、職員に寄り添う努力を重ね、風通しの良い職場環境の構築をお願いしたい。(要望)

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

〔生活環境文化部〕

- 。災害時外国人支援ボランティア育成研修について

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

【災害時外国人支援ボランティア育成研修について】

- 災害時外国人支援ボランティア育成研修を開始してからの参加者数の推移は。
- △ この研修は令和4年度から開始している。昨年までは定員20名と設定して募集しており、4年度は20名、5年度は21名、合計41名の方に参加いただいた。
- 会場の広さの関係で定員を20名に設定しているのか。
- △ 会場の広さに加え、毎年グループワークを実施している関係で定員は20名に設定してきた。今年は広い会場を用意しており、多くの参加者からの申込みがあった場合には職員がサポートに入るなど、定員を定めずに対応できるように準備を進めている。
- 5年度の研修に参加したが、災害時に外国人の方々がどのようなことに困っており、どのように対応すればよいかの気づきを得ることができ、非常に良い研修であったと感じている。現在のところ参加申込者数は18名とのことだが、本市では外国人の方々が増加しており、また、今回の能登半島地震による被害を受けて、災害に対する市民の意識も高まってきていると思われることから、より多くの方々に参加いただけるよう尽力してほしい。（要望）

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

民生病院常任委員会 当局説明員（27名）

生活環境文化部長	二 塚 英 克	市民病院長	福 島 亘
生活環境文化部次長 参事	山 本 真 弘	市民病院事務局長	柴 田 文 夫
生活環境文化部次長 地域課長	大 野 洋 靖	総務課長	中 保 哲 憲
市民生活課長	松 本 武 司	医事課長	池 守 凡 子
環境政策課長	室 谷 智		
文化国際課長	吉 本 恭 子	消防長	浦 島 章 浩
男女平等・共同参画課長	竹 内 文 雄	消防本部次長	有 澤 智 文
市民課長	布 橋 みちる	消防本部次長 総務課長	布 橋 隆 男
		予防課長	田 中 秀 和
福祉保健部長	戸 田 龍 太 郎	警防課長	春 日 裕 治
福祉保健部次長	上 森 智 美	通信指令課長	沙 魚 川 文 春
福祉保健部次長 こども家庭センター長	長 谷 川 聡		
社会福祉課長	関 原 総 臣		
社会福祉課 福祉連携推進室長	大 野 美 喜 子		
子ども・子育て課長 保育・幼稚園室長	森 川 朋 子		
長寿福祉課長	徳 市 直 之		
保険年金課長	尾 崎 正 和		
健康増進課長	竹 田 裕 子		